一人の健康から地球の未来まで
AKATSUKA
グリーン通信
Green Communication
vol.168 2013.3月号

画期的な品種改良で普及した オステオスペルマム

オステオスペルマムは、南アフリカ原産のキク科の多年草で、比較的新しく登場した草花ですが、今や早春の草花として無くてはならない存在となっています。日本に入って来たのは1973年頃といわれていますから、40年ほど前の事になります。初期は白い花しかなかったのですが、品種改良が進み、今ではピンクや濃い紫、さらには黄色まで登場しています。花色のバリエーションも品種改良によってもたらされた成果ですが、実は画期的な品種改良がなされ、これほどまでに普及するようになったのです。その改良とは、終日開花性（オールデイブルーミング）という性質なのです。

欠点を改良 花が閉じなくなった！

もともと、オステオスペルマムは、晴天の日中だけ花を開き、雨の時はもちろんのこと夜間や曇りの日には花を閉じてしまう性質がありました。つまり、天気の悪い日には花が見られないだけでなく、室内に持ち込んでもすぐに花を閉じてしまったのです。そのため、大変美しい花でありながら、とても販売しにくく、利用もしにくい花だったのです。品種改良によって、この大きな欠点が改良され、花が閉じなくなったために園芸的な価値は飛躍的に向上しました。今では当たり前のような性質ですが、ひとつの花が表舞台に出るためには、ブリーダー（育種家）達のたゆまぬ努力があるわけです。

植え付け方法

店先に出回ってくるのは2月頃からですが、寒さには少し弱いところがあるので早い時期に出回る苗は注意が必要です。寄せ植えなどにも使いやすい花なのですが、寒いうちは軒下などで、霜を避けておく方がよいでしょう。花壇に植える場合は、ポットのまま軒下などで寒さに慣らしてから植え付けると安心です。鉢花として出回ってくるものも多いのですが、暖かすぎる室内に置くとすぐに徒長してしまいます。なるべく日当たりの良い窓辺や、または屋外の軒下に置くなど、間延びしないように管理しましょう。枝が伸びながら次々と咲いてくるので、できればひとまわり大きな鉢に植えかえてやると長く楽しめます。

たくさん花を咲かせるには

ポット苗を花壇や寄せ植えに使う場合、白い根がいっぱいになり根詰まり状態になっていることが多いので、必ず少しほぐして植え付けることがポイントです。しかし寒い時期はなかなか新しい土に根が伸びていかないので、しっかり活着するまでは管理に少し気をつけておきましょう。花のピークは5月いっぱいで、6月になると花数も減り姿も乱れてきます。そのまま放置しておくと蒸れて枯れてしまうこともあるので、梅雨に入る前に半分ほどに切り戻しておくと夏越しが楽になります。来年にまたきれいに咲かせるためには、9月にもう一度形を整えるように切り戻しを行います。また、この時に挿し芽を行ってもよいでしょう。ある程度の寒さに会うと花芽ができるので、寒くなるまでに株をしっかり育てておくことが、たくさん花を咲かせるポイントになります。

文／グリーンアドバイザー 倉林雪夫